こうめプロジェクト スタジオ通信

No.223

発行日
12月28日

『Tryangle』12月号「東海大学 Egyptian Project」

テレビ班

番組Youtubeはこちら

今回は、古代エジプト及び中近東の遺物の整理・修復を行う「Egyptian Project」のトライに迫ります。

実際に古代エジプト及び中近東コレクションの遺物に触れながら学生が学んでいる姿が印象的です。また、貴重なコレクションはどのように管理されているのかにご注目ください！

こちらラジオ番組制作部

1週目（クリックして聴く）

「超即興トーク」をテーマにして、建学祭に訪れてくださった方々へ生放送でこちラジをお届けしました。

2週目（クリックして聴く）

建学祭のリポート、参加している方へのインタビューなどを行い、建学祭の魅力を伝えました。

3週目（クリックして聴く）

俳句の先生にインタビューを行い、実際の制作活動を通して俳句と触れ合いました。

4週目（クリックして聴く）

EPVワクチンについてのイメージ調査や取材を行い予防することの大切さを学びました。

5週目（クリックして聴く）

単発バイトについて取り上げ、お金を稼ぐことの他に普段と違う仕事をすることで得られる経験があることを伝えました。

6週目（クリックして聴く）

夢についての調査からまだ解明されていないことがあるからこそ神秘的であると考えました。

放送情報

湘南平塚コミュニティ放送
（FM 湘南ナパサ 78.3Mhz）
毎週火曜
20:00～20:30 オンエア

編集担当

岡田／森／今井／松坂／安藤／小川／春日／海和

一言

3年生が引退し、新体制での活動がスタートしました！
引き続き「スタジオ通信」をよろしくお願いします！

新体制での活動が始まりました！

広報班Spinach!!

東海大学広報メディア学科の公式サイト内にある「広報メディア学科ニュース」を更新しました。

・総務省のシンポで広報メディア学生が講演

大学HPニュースサイトはこちら

当プロジェクトのメンバーが企画会議に参加した平塚市の広報番組『ひらつかシングス』が、YouTubeの平塚市公式チャンネルで公開されています。今回参加させていただいた番組「Vol.21湘南の森を守る」が公開されました。ぜひご覧ください！

ひらつかシングスYoutubeはこちら

DOZINE

12月1日(日)、東京・東京ビッグサイト 西3・4ホールにて行われた「文学フリマ東京39」に参加してきました。今年度は、1４９６７人（出店者４０２６人、一般来場者１０９４１人。ともに主催者発表）と過去最高の来場者数となりました。

今回は、初めての東京ビッグサイトでの開催ということもあり、会場は熱気に満ち溢れていました。

次回の「文学フリマ東京４０」は、２０２５年5月１１日(日)に東京ビッグサイト南1-4ホールにて開催される予定です。

DOZINEも出店を検討しておりますので、機会があればみなさまも是非会場でお会いしましょう！

DOZINEは来年度に向けて、少しずつですが、準備が始まっております。来年度はメディアプロジェクト4団体が更に連携を深めて、より多くの方に知ってもらえるように取り組んでいきたいと思っております。これからのメディアプロジェクトにどうぞご期待ください！

最新の同人誌はこちら

地域魅惑

地域魅惑ではWOMJ（(一社)クチコミマーケティング協議会）メソッド部会と連携し、２０２４年度の研究テーマをインフルエンサーマーケティングにおける信頼として研究しています。このため、１１月１２日に桜美林大学において、広告代理店の方や桜美林大学、東京工科大学の研究者、学生と意見交換を行いました。

また、研究グループ「エディラボ」と連携し、デジタルハリウッド大学院教授らとともに、今後の研究テーマを「社会を編集視点で分析する」として１１月３０日にデジタルハリウッド大学院大学で意見交換しました。

JPOT

今月はjpotメンバーで座談会を行いました！！テーマは今世間を騒がせている『闇バイト』。皆さんはZのや単発バイトのアプリで怪しい求人を目にしたことはありませんか？ニュースを見ていると受け子をやってしまう人の中には私たちと同年代の人もいます。そこで、私たちと同世代の若者が闇バイトの受け子をしてしまうのにはどのような背景があるのか、どうすれば撲滅できるのかを真剣に話し合いました。その内容も冊子が完成したら掲載する予定なので楽しみにしていてください！

今月のコラム

12月に入り、駅やショッピングモールではクリスマスツリーやイルミネーションが飾られており街はクリスマスムードで賑わっています。その一方で年の瀬に向かって準備が進み、もう今年も終わりかと少し寂しく思っています。私の家族は12月の中旬にさしかかり、年賀状を送る準備を始めました。幼い頃、友人や親戚へ年賀状を書くことがとても楽しかったことを覚えています。近年は年賀状を送らない家庭が多いようですが、年賀状を通して新年の挨拶をすることはとても素敵な風習だと感じています。

（松坂）